

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

朝鮮労働党第4回代表者会議開催

2012年4月11日、平壤で開催された。今回の代表者会議の議長は、首相である崔永林氏が議長を務めた。議題は(1)金正日同志を朝鮮労働党総書記にとこしえに高く戴き、金正日同志の革命生涯と不滅の革命業績を末永く輝かせるために、(2)朝鮮労働党規約の改定について、(3)金正日同志の遺訓を体して、金正恩最高司令官を党の最高首位に高く推戴することについて、(4)組織問題について、であった。

この会議では、第3議題で「金正日同志の遺訓を体して、金正恩最高司令官を党の最高首位に高く推戴する推戴の辞」を金永南氏が述べ、崔竜海・朝鮮人民軍総政治局長、全勇男・青年同盟中央委員会第一書記、玄相主・職業総同盟中央委員会委員長、李明吉・農業労働者同盟中央委員会委員長、張徹・国家科学院院長の討論の後「朝鮮労働党規約と朝鮮労働党最高指導機関選挙細則により、朝鮮労働党第1書記である金正恩最高司令官が、党中央委員会政治局委員、党中央委員会政治局常務委員会委員、党中央軍事委員会委員長に推戴された」と宣言した。

第4議題では、党中央委員会政治局常務委員会委員の補選が行われ、崔龍海氏が選挙された。党中央委員会政治局委員、委員候補を召還し、補選が行われ、金正角、張成沢、朴道春、玄哲海、金元弘、李明秀の各氏が政治局委員に、郭範基、呉克烈、盧斗哲、李炳三、チョ・ヨンジュンの各氏が政治局委員候補に選挙された。党中央委員会書記を召還し、補選が行われ、金慶喜、郭範基氏が選挙された。党中央軍事委員会副委員長を選挙し、委員を召還し、補選が行われ、党中央軍事委員会副委員長に崔龍海氏が党中央軍事委員会委員に玄哲海、李明秀、キム・ラッキョム氏が選挙された。党中央委員会委員、委員候補を召還し、補選が行われた。党中央委員会部長に金永春、郭範基、朴奉珠の各氏が任命された。党中央検査委員会委員を召還し、補選が行われた。

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第12期第5回会議開催

2012年4月13日、平壤の万寿台議事堂で最高人民会議第12期第5回会議が開催された。会議では、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第12期第5回会議の議案を決定した。議題は(1)朝鮮民主主義人民共和国社会主義憲法を修正・補充することについて、(2)金正恩最高司令官を朝鮮民主主義人民共和国の最高首位に推戴することについて、(3)朝鮮民主主義人民共和国内閣のチュチュエ100（2011年）の活動状況とチュチュエ101（2012）年の課題について、(4)朝鮮民主主義人民共和国のチュチュエ100（2011）年国家予算執行の決算とチュチュエ101（2012）年の国家予算について、(5)組織問題であった。

第2議題では、金永南最高人民会議常任委員会委員長が、

金正恩最高司令官を朝鮮民主主義人民共和国の最高首位に推戴する演説を行い、「全党、全軍、全民の総意を汲んで、金正恩最高司令官を朝鮮民主主義人民共和国国防委員会第1委員長に推戴するという朝鮮労働党中央委員会、朝鮮労働党中央軍事委員会の提議」を最高人民会議に提起し、この提議は、すべての代議員と参加者たちの全幅の支持と賛同を得た。会議は、朝鮮労働党第1書記である金正恩最高司令官が、朝鮮民主主義人民共和国国防委員会第1委員長に推戴されたことを宣言した。

第3議題では、2010年の工業総生産額が対前年比2%増になり、水力発電量、鉄鉱石、電気亜鉛、発電機、肥料、マグネシアクリンカー等の生産が大幅に増加したこと、大同江果物総合加工工場の竣工、その他の食料工場や紡績工場、日用品工場等の技術改造、地方工業工場の現代化の進展、郭山干拓地の第2段階工事の完工、熙川発電所の竣工、金属工業部門では、コークスを使わない製鉄法のさらなる普及と製鉄所・製鋼所の主要生産工程の技術改造、端川地区をはじめとする非鉄金属生産基地の現代化、軽工業原料の供給基地の整備では、興南肥料連合企業所、28ビナロン連合企業所、南興青年科学連合企業所の技術改造等、機械、電子工業部門では熙川精密機械工場の燃料ポンプ分工場の最先端水準への改造等、都市整備では平壤の万寿台地区の人民劇場の建設と超高層アパートの建設等が成果として報告された。

今年の事業としては、人民生活向上に大変化をもたらすことが朝鮮労働党の最重要目標とされ、軽工業と農業部門に力量を集中し、新世紀の産業革命の炎、咸南の炎高く経済強国の括弧とした土台を作り上げるとしている。同時に、輸出品生産や経済特区、合併や合作の推進や英才教育の推進、文化芸術部門の推進などにも触れられている。

第4議題では、2010年の国家予算収入（歳入）は予算に対して1.1%増（地方予算収入は12.8%増）、国家予算支出（歳出）は、予算に対して0.2%減となったことが報告された。2010年の予算は、人民経済の発展に多くの資金を回し、軽工業と農業、人民経済四大先行部門（電力、石炭、金属、鉄道運輸）をはじめとする主要工業部門の主体化、現代化の実現と生産の正常化、金日成主席誕生100周年に合わせて建設された「記念碑的創造物」の建設に投入されたと報告された。国家予算支出額に占める軍事費の割合は15.8%であったと報告された。

2011年の予算は、対前年比で国家予算収入が8.7%増で、うち取引収入金が7.5%増、国家企業利益金が10.7%増、協同団体利益金が5.3%増、固定財産減価償却金が2.3%増、不動産使用料収入1.9%増、社会保険料収入1.7%増となっている。国家予算支出は対前年比で10.1%増、うち農業部門9.4%増、四大先行部門は12.1%増、基本建設部門12.2%増、科学技術発展に10.9%増、教育9.2%増、保健8.9%増、社会保険及び社会保障7%増、体育6.9%増、文化6.9%増で、支出に占める軍事費の割合はとなっている。

(ERINA調査研究部長・主任研究員 三村光弘)